

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者、管理者が一体となり、独自の理念を作っている。 また、初任者研修の他職員会議で周知している。	常に口に出して確認している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、周知している。	日々、1対1の細かい取り組みを指導していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットの記載や、ボランティアの方々への来訪時を利用して掲示を見てもらっている。	地域の人々に、認知紹介後の特性を活かした介護相談や講習等行なっていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天気の良い日は散歩に出かけ、近所の方々と挨拶を交わしている。防災協力員として依頼している。	畑仕事を
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板を回してもらって地域の情報を得ている。	問い3に同じ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所周辺を散歩しながら、世間話をしたり、コミュニケーションを図るよう、努めている。	○	問い3に同じ
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員、家族他気がついたことを話し合い、真摯に耳を傾けている。		重度化への対応等、家族との協力体制を具体化していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度話し合いを設け、意見交換、状況報告を行なっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所になるべく足を運び、顔なじみの関係になるように努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要時には関係機関と連絡を取り合うようにしている。	○	機会があれば、研修会に参加したいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、平日頃より職員に話して周知するように努めている。		今後も虐待に繋がらないように、両者の精神面のケアに努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書等により、よく説明するように心掛けている。常日頃から、家族と連絡を取り合い、不安や、疑問を投げかけられるように努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が、職員に意見不満等言えるような雰囲気作りに努めている。普段の何気ない会話で思っていることを聞く姿勢を持つよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議を施設の食堂で行い、いつでも利用者が参加し、意見を言えるようにしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に計画書や、通院状況、生活状況を家族に送付している。電話や文書等でやり取りをしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も文書等の連絡を続けていく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談受付の窓口を契約書(重要事項)に記載し、契約時に説明している。 家族が職員に希望、要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。</p>	<p>○</p> <p>ご意見箱の設置。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、職員会議で職員の話聞くように努める。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて柔軟な勤務体制を取れるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>急な休みでも対応できるように努めている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者を最低限度に止めるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>定着に向けて環境整備に取り組む。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	徐々に研修会に参加できるようになって来た。施設内でも初任時は出来るだけマンツーマンで指導し、その後も助言、アドバイスを行うようにしている。	○ 研修会に参加した職員が、内部の職員に伝えられるような場と時間を設けたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に参加し、意見交換や勉強会を行なっている。	○ 職員間の交流を深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	無理なシフトは作らない。不安、疑問に思ったことは運営者、管理者にいつでも聞くことが出来るような体制づくりに努めている。	○ 不安、疑問、要望を一緒に考え、解決する能力を育てるような環境づくりに努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の気付きに対して、共感できるような姿勢を持つように努めている。	○ 外部の研修会、講習会への参加。内部でのスキルアップ(資格取得、技術向上)へのバックアップ。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族の状況を担当のケアマネージャーから情報を収集したり、訪問、施設見学を通してなじみの関係を築くように努めている。	アセスメントを行い、家族の希望、本人の状況、生活歴等情報収集を行なう。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	問い23に同じ	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関、家族から情報収集し、本人の様子を観察する。		様子観察の報告を重視して、さらに情報伝達を強化し、共有していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当のケアマネージャーと共に本人の自宅や、利用している施設に訪問したり、本人や家族に施設見学をしていただいて、雰囲気を覚えてもらう等の工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	施設内の家事や買い物出来るだけ一緒に行き、考えるようにしている。	○	職員が利用者に教わるような活動(家事、レク等)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にし、一緒に考えていく姿勢で臨んでいる。		電話、面会等の利用者家族との機会を利用して話し合いを持っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の状況を定期的にお知らせしたり、面会を呼びかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、電話、手紙のやり取りをいつでも出来るようにしている。		郷里訪問等、本人のなじみの場所に行ったり出来たら良いと思う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格、特性をよく観察し、職員が解することで良好な関係を保てるように努めている。	○	余暇利用時の個々への声掛け、手伝いを重視し、関係を取り持っている。今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、当方人のデイサービスを利用するケースがある。	○	重度化してから退所し、デイを利用し、在宅で1年以上の経験もあるので、今後も取り組んでいきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話から、思いや意向を聞いている。	○	思いや意向を話しやすい雰囲気作りに配慮する。1対1のコミュニケーションを大事にしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネージャーや、家族に今までの暮らしぶりを聞いたり、訪問したりして情報収集に努めている。	○	入所前の自宅訪問等により、細かい情報収集に今後も努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日勤 夜勤の申し送りの徹底。 記録の整備(出来るだけ詳しく)		記録整備を今後も徹底していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当ケアマネ、家族に情報収集し、出来るだけ意向に添った計画を作成するように努めている。	○	ケース会議をもっと充実させたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族と話し合いの機会を設け、家族と一緒にDr. に会いに行ったり、書面で計画書をやり取りしている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・晩のミーティングを行なう。 記録を個別に詳しく記載し、読み返し、振り返りながら計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	昨年の地震後、消防署のレクチャーを受けた。		月2回、いけばなのボランティアが来訪。 年2回、近所の方が民謡を聞かせに来てくれる。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、リハビリの支援をした。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現段階では協働するケースは無いが、今後、そのようなケースがあれば協働していきたい。	○	協働していく準備はある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際に同行し、Dr. と面談する機会を設けるようにしている。	○	主治医、嘱託医により、適切な期間への紹介をいただいでいく。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳神経外科、、精神科、神経科に受診してゐる。		個々のかかりつけ医への受診は、看護師または管理者が同行し、日々の様子や服薬状況を報告している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日々の健康状態、バイタルチェック表等作成し、看護職に相談している。	○	適切な処置の連携を継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	H20は入院者はなし。 日ごろの体調変化に気を配り、早め、早めに対応していく。	○	医療連携を密に続ける。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に面会を呼びかけたり、頻繁に状況報告師、連絡を密に取り合っている。また、家族、Dr. と話し合ったことをミーティングで話したり、連絡事項に掲示したりして共有している。		出来る限りの支援を行なう。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と一緒にDr. に愛に幸、今後の方針について話し合いを持つようにしている。家族には契約時や、必要時に事業所の「出来ること、出来ないこと」を説明し、理解していただくように努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	問い48に同じ		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個室の提供 ・大事な話は居室で行なう。 ・個人情報、必要時、目的以外で使用しない。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段から利用者が職員に話しやすい雰囲気を作るように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりにペースを大事にしつつ、メリハリのある生活が出来るように努めている。	○ 個々にあった声かけの仕方、援助の方法をより深く模索していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容院に出かけてカット、パーマをすることもある。	買い物と一緒に出かけ、好みの服等選んでもらうようにしている。今後も続けたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたり、畑で栽培、収穫したものを使い、食事を楽しんでもらっている。(時には外注したり・・・)	冬場は特に動きが少なくなるので、必要な栄養を取りつつ、適正な体重を保つように食事、おやつを提供を考えていきたい。地産地消を心がけたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人におやつ、飲み物の好みを聞くよう努めている。	・お酒、タバコをたしなむ方は現在いない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけトイレで排泄できるように誘導している。個々の排泄リズムを観察し、記録を元に職員が把握して誘導するように努めている。		個々の特性をよく観察し、それぞれにあった声かけや誘導の仕方を工夫していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ本人に希望を聞くように努めている。		問い57に同じ
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	適度に運動、急速、栄養補給し、夜間良眠出来るよう支援している。		外に出る機械をもっと多く持ちたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が昔好きだったこと、仕事等情報収集し、個々に合った趣味や役割を行なえるよう支援している。	○	高齢化、重度化により実施するのが難しくなっているが、個々に出来ることを観察し、工夫しながら行なっていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理は難しいので、職員と一緒に買い物に行き、立替払いをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩、畑仕事、買い物(食材買出し)に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		○	ドライブなど外出する機会を多くしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には手紙、電話のやり取りは自由		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人に面会を呼びかけ、ホール、居室等で談笑できるように工夫している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	○	日ごろから拘束禁止に関する話を話し、職員に周知している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間に玄関の施錠はしている。(防犯上の理由)玄関にチャイムを取り付けている。	○	部屋にかぎは無い。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	申し送り、デンタルにより、見守り声かけを行なっている。	○	非日常的なことが合った時には特に重点を置いて、見守りを強化している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	防火も含め、チェック方式で行なう声掛け、観察により、防衛している。	○	ポット、包丁、針等使用時には、職員が必ずそばにいて、危険を回避するようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットを充分活用した見守り、報告、伝達により防止している。	○	予想される危険を話し合い、事故を未然に防ぐよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の講習会に参加した。	○	講習会に全員参加させたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方に災害時のレクチャーを受けた。有事の際のマニュアルを施設内、数箇所に貼っている。近隣住民に協力を呼びかけている。	○	近隣の住民に呼びかけて、有事の際の防災訓練等行ないたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族とは常に連絡を取り合い、状況を説明を行なって、理解を得るように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎日行なう。 顔色、肌のつや、表情等異変があれば速やかに報告	○	医療関係者と共に勉強会を定期的に行ないたい。 バイタルチェックは毎月嘱託医に届けている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加、原料は連絡事項として善処遺訓に伝達。 看護師に連絡、相談している。		問い73に同じ
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、水分量、運動を適度の摂取行なえるように努めている。 Dr. と相談し、下剤の服用も検討する。	○	他職種と連携し、栄養、運動、休息、服薬の多方面から対応を検討していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、義歯洗浄、イソジンうがいを行なう。歯磨きできない利用者にはガーゼで口腔内を清拭している。定期的に義歯消毒を行なっている。	○	事業所独自の口腔体操を行なっているので、今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々に応じて食事形態を変えたり、トロミをつける等工夫している。 こまめに水分を摂るようにしている。</p>	<p>○</p> <p>必要時、水分摂取表を個別に作成して、検討している。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザの予防接種を行なった。 手洗い、ウガイの徹底。 マニュアル作成し、見えるところに貼りだしている。</p>	<p>○</p> <p>手洗い、ウガイは職員、利用者共に重点的に行なっている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食材は安全で新鮮なものを取り入れ、衛生管理に努めている。 調理 器具、台所は常に衛生的であるように努めている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>建物が普通の民家</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>監視にならないように、無関心にならないように常に気を配るよう心がけている。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>普段はホールでが多いが、一緒に過ごすことが多いが、互いに居室を訪ねたりすることもある。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、なじみのものを持ち込んでいるが、あまり多くはない。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	寒暖計設置し、温度、湿度に気を配っている。時々換気し、空気の入替えを行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部は段差をなくし、歩きやすいようにしている。危険なものは置かない。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりコミュニケーションの取り方を考え、見守る姿勢を持っている。9人それぞれ互いに補いあっている。	○	個々の「強さ」を見極める力と、「意欲を引き出す」対応の仕方を学んでいきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターや花壇を作り、利用者と共に楽しんでいる。		これからも暖かくなったら行ないたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

建物がコンパクトで、利用者の動きが一目でわかるため監視にならないように充分気をつけさりげない援助をしています。新しい利用者さんをきめるときは、空室となった部屋の条件に合う利用者さんを選ばせてもらっています。(部屋替えはしません)介護度1から5までの利用者さんですから安心が無関心にならないよう皆さんへの気配りをしています。みとりはしませんが、各有資格者・職員・嘱託医との協力の下、できるだけ穏やかに普通の暮らしを続けるよう支援します。